

医療機関名 MCBIクリニック
検査受診者ID MCBI000000000001
採血日 2014/12/03
氏名 MCBI 太郎
IKG_XXXXXXX

MCIスクリーニング検査結果

sample

【注意事項】 判定結果をご覧になる前に必ずお読みください。

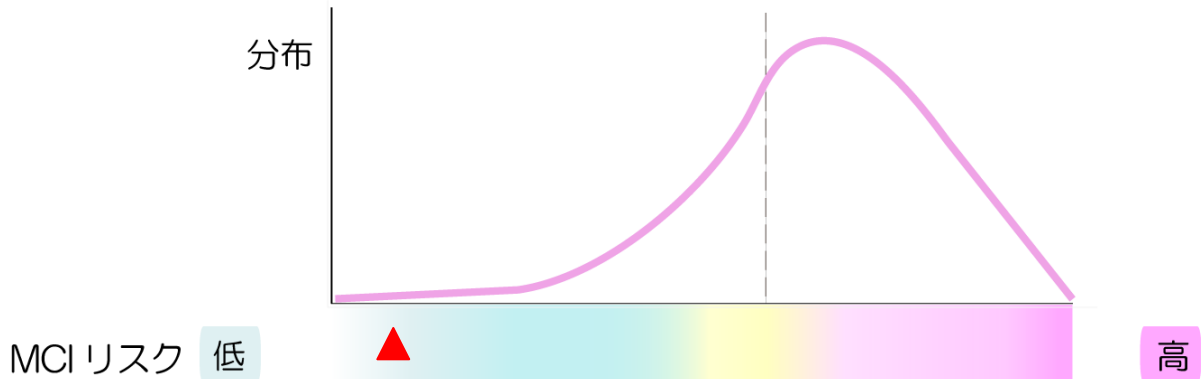
本検査は、血液中の特定のタンパク質を調べることにより、アルツハイマー型認知症（アルツハイマー病）の前段階である軽度認知障害（MCI）のリスクを、統計学的に調べるものです。 **早期に発見するためのスクリーニング検査** ですので、本検査の判定結果で診断が確定するものではありません。

- 本検査の血液中のタンパク質量は栄養状態が悪い場合や自己免疫疾患など炎症性疾患において変化することがあります。
- 認知症の最大のリスクは「加齢」です。30～40歳代の検査結果については年齢を考慮した評価が必要です。

MCBI 太郎 様の検査結果は、以下の通りです。

軽度認知障害（MCI）リスク判定

MCIの方の分布を示すグラフ



※ “▲” のある位置が、あなたのMCIリスクを示しています。

判定

A

MMSE得点

—

判定	説明
A	健常です。 今後も健康的な生活を心がけましょう。
B	軽度認知障害（MCI）のリスクは低めです。 健康的な生活を意識的に習慣づけることでMCIのリスクを抑えることができます。予防の効果は早いほど高いので、生活習慣を改善し予防に取り組みましょう。
C	軽度認知障害（MCI）のリスクは中程度です。 今後の生活習慣によってはMCIのリスクが高まります。食事や運動などの生活習慣を見直し、ただちに予防に取り組みましょう。また、心配な方は専門医による早期の検査・診断を受けられることをおすすめします。
D	軽度認知障害（MCI）のリスクは高めです。 MCIの段階でも予防により認知症の発症を防ぐ・遅らせることが可能です。すぐに予防を始めるとともに、専門医による詳細な検査・診断を受けられることをおすすめします。

軽度認知障害（MCI）と認知症の関係について

軽度認知障害（MCI）は認知症ではありませんが、完全に健康な状態でもありません。認知症になる前の段階の症状で、日常生活は問題なく送れます。

定義としては、「本人または家族による記憶障害の訴えがある・健常高齢者に比較して記憶が低下している・全般的認知機能は概ね正常である・日常生活上問題なし・認知症ではない」となります。最近の研究ではMCIの段階で適切な介入を行えば、認知症の発症を予防または遅らせることが分かっています。

認知症で一番多いのはアルツハイマー型認知症（アルツハイマー病）です。アルツハイマー病は発症する20年近く前から、原因物質である“アミロイドベータペプチド”（ $A\beta$ ）が脳内に少しずつ蓄積することによって起こります【図1】。

$A\beta$ は、神経細胞にダメージを与え、記憶や認知機能を担うシナプスの機能を阻害すると言われています【図2】。



【図1】

【図2】

私たちの体には $A\beta$ が脳内に蓄積しないよう排除する仕組みが備わっています。これには、脂質代謝に関連する“アポリポタンパク質”や免疫機能の“補体タンパク質”が関係していると言われています。 $A\beta$ を排除するようなタンパク質や、免疫機能に由来するタンパク質の量を調べることで、MCIやアルツハイマー病のリスクをある程度知ることができます。

この検査は、アルツハイマー病の原因物質である $A\beta$ を「脳内から排出」したり $A\beta$ の「シナプス毒性に対して防御」する働きのある3種類の血液中のタンパク質（ApoA1, TTR, C3）の量を調べています。これらタンパク質の量が少なく、その働きが低下している場合、 $A\beta$ が脳内に蓄積しやすくなり、シナプスに対する毒性を防御できなくなることがあります。その結果、MCIやアルツハイマー病のリスクが高まるとされています。